

水産の窓

【マイワシの漁獲動向について】

1. マイワシの漁獲動向

マイワシは大幅な資源の増減を繰り返すことが知られています。房総・常磐～道東海域では、昭和40年代後半頃から漁獲量が急増し、昭和61年～63年にまき網や定置網などで最大約250万トン程度の漁獲がありました。平成元年以降減少が続き、平成10～20年代前半は1～10万トンレベルで推移しましたが、平成25年頃から漁獲量が増加する傾向にあります(図1)。

マイワシの大半はまき網漁業で漁獲されており、北部太平洋まき網漁業協同組合連合会(本県大中型まき網が所属)まき網船による房総～三陸海域でのマイワシ漁獲量は、平成20年に9千トンと1万トンを下回る水準にまで低下しましたが、その後増加傾向にあり、平成28年は15年ぶりに10万トンを超え、平成29年は18年ぶりに20万トンを超える状況となっています。

また、平成23年以降は、一時マイワシ漁が途絶えていた道東沖漁場が形成されており、平成29年には10万トンを超える状況となっています(図2)。

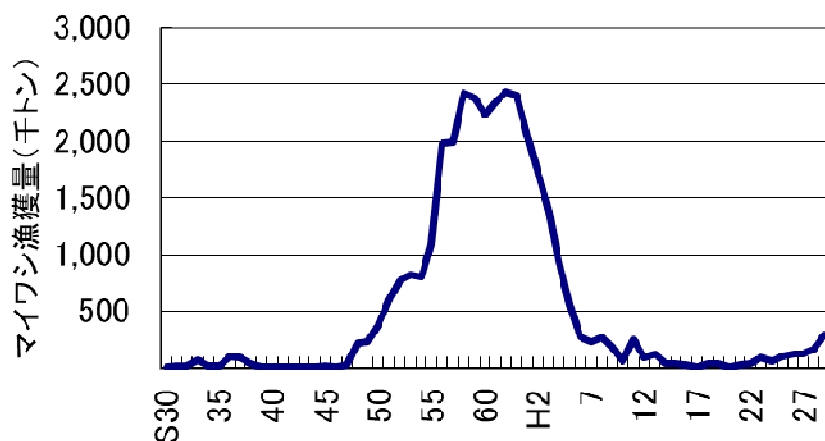


図1 千葉県～北海道マイワシ水揚量の推移(農林統計(属地))

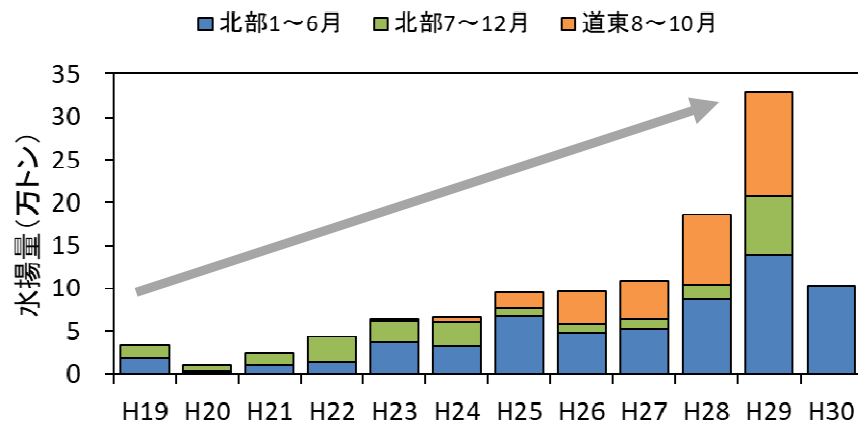


図2 北部まき網・道東まき網年別マイワシ水揚量の推移

2. 漁獲されている魚体

平成30年1～5月に漁獲された魚体は、体長18～22cm前後の3,4歳魚(H27, 26年生まれ群)が主体で、これに体長13～16cm前後の1歳魚(H29年生まれ群), 17～18cm前後の2歳魚(H28年生まれ群)および22～23cm前後の5歳魚(H25年生まれ群)で構成されていました(図3)。

マイワシの寿命は7歳程度で、資源水準が低下すると資源は若齢魚が主体で構成されるようになり、資源水準が増加すると若齢～高齢魚で構成されるようになります。

ここ数年の漁獲物の年齢構成をみると、若齢～高齢魚で構成されています。

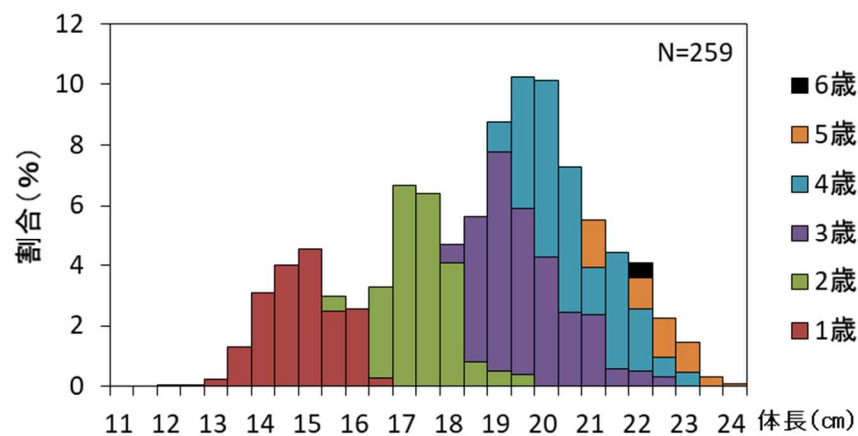


図3 鱗の年輪で査定した年齢別体長組成の状況(平成30年1～5月)

3. まき網漁業の年内の動向

6月中旬以降、4～5月ほどまとまった漁獲ではないものの、500～2,000トン/日の漁模様が継続しています。例年6～7月は、関東以南海域で産卵を終えた主群が茨城沖を通過し東北海域に北上する時期となります。現在、先行して北上した群れが三陸海域でまとまっている一方で、今後の主体となる1歳魚が遅れて犬吠埼周辺海域に北上してきています。今後1ヶ月程度は漁場が房総～三陸海域に分散して形成され、8～10月は道東沖が主漁場となり、その後南下すると考えられます。

[次号予告] H30.6.26 発行の「水産の窓」は、「市場における衛生管理」を予定しています。